

伊賀市に暮らし、働くあなたに考えて欲しいこと

伊賀市の賑わい創出に向けて

伊賀市本庁舎が、三重県伊賀庁舎隣接地（伊賀市四十九町）に移転した後、伊賀市南庁舎を核とした“賑わい”づくりは、将来の伊賀市にとって、とても大切なことです。

私たちの伊賀市が、子どもや孫の世代になっても引き続き元気なまちであるように、市民みんなで、一緒に考えていきましょう。

将来の伊賀市のまちづくりのイメージ（伊賀市の方針案）

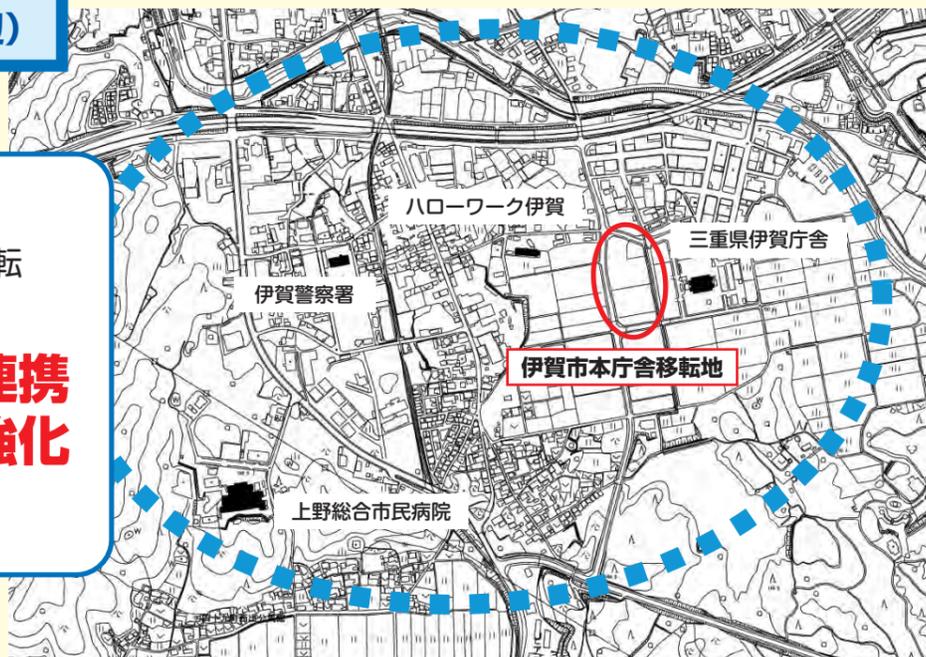
文化・歴史・集客交流機能（上野丸之内周辺）



地域資源である
既存建物を**保存・活用**

- ◎伊賀市南庁舎
 - ・新しい図書館を含む複合施設
 - ・賑わいの拠点となる核施設
- ◎伊賀市上野図書館
 - ・新芭蕉翁記念館として整備
 - ・周辺施設との連携を考えた施設

行政機能（四十九町周辺）



- ◎伊賀市本庁舎
 - ・県伊賀庁舎隣接地に移転
- 連携強化**
- 三重県
 - 伊賀警察署
 - ハローワーク
 - 市民病院など

伊賀市が抱える将来の課題

- 人口減少…1年で1,000人ずつ人口が減少する ⇒ **税収減**
- 少子高齢化…人口減少、高齢化による**社会保障費**（医療費や扶助費）の**増大**
- 公共施設の最適化…市町村合併による多数の類似施設 ⇒ **多額の維持コスト**
- 普通交付税の減額…合併後10年経過で**交付税の減額**

市民の財政負担 **増**

課題の解決に向けたまちづくりの方向性（文化・歴史・集客交流ゾーン）

- ◆南庁舎を核とし、市街地にある既存資源を活用した**集客交流の促進**を図り、**交流人口の増加による地域活性化**を目指します
- ◆市街地における活性化の取り組みから、**伊賀市全体の賑わい創出**につなげます

まちづくりに向けた具体的なプラン（伊賀市の提案）

将来の**財政負担増**を見据え、**少ない経費で最大の効果**を生み出すまちづくり

伊賀市南庁舎

- 【必要な機能】
- 文化・歴史の核施設としての拠点性、求心性
 - 庁舎移転後の賑わいの拠点

新しい形の図書館を含む複合施設

合併特例債活用
期限（H31年度末）
までに完了する
ことで財政負担
を軽減

伊賀市上野図書館

- 【現在の課題】
- 老朽化・狭隘（きょうあい）化
 - 新しい図書館ニーズ等

**南庁舎に移転
機能・サービスの充実**

新芭蕉翁記念館

- 【現在の課題】
- 老朽化、史跡内の規制
 - 収集保存、展示スペース不足等

**上野図書館に移転
周辺を含めた一体的な活用**